

生涯にわたる趣味として

湯田仲町 真野 淳



ふと手にした水墨画の本

三十歳後半の頃、「何か生涯にわたって、良い趣味をもって送れたらな」と思っていた。近所の大きな本屋に立ち寄ったとき、ふと一冊の水墨画の本を手にした。墨色一色で身近な草花が描かれていた。簡素ではあるが、墨の透明感の中に品格を感じて、早速購入し休日に描いてみた。家にある学童用の硯、墨、筆と障子紙を使った。何枚か描いたが、本のようなわけにはいかない。「墨のせいだ」と思い、画材店で墨を買って描いてみたが、思うようにいかない。今度は「筆だろう」と水墨画用の筆を試してみたが、滲みが激しくて絵にならなかった。画材店の

老主人に相談したところ、奥から紙を出して来てくれた。その紙で描いたら滲みは解決した。家族に見せると、「本の例題とはかなりちがっている」と言われた。自分では「形は出来ている」と自負していたのだが。

初入選はしたが・・・

半年後、「東京と新宿で水墨画全国公募展が行われる」との記事を水墨画本に見つけたので、見学に行ってみた。作品の大きさや出品点数の多さ、画題の多様さに驚いて帰って来た。毎年一回の開催と聞き、一年かけて描き出ししようと決意した。半年かけて一枚描き上げ、次の年に出品したところ、何かの間違いかからか、初入選となった。何が良くて、何が問題なのか、分からなかった。

勉強を重ねる

東京の展示会場で諏訪市のK氏が出品していると聞き、早速K氏に連絡したところ、T市にいる日本画と水墨画を教えている先生がいることが分かった。早速入会し基礎的なことを勉強させていただき、このことが、毎年全国公募展に出品するきっかけとなった。「東京の教室に出かけて来なさい」と言われ、十年ほど全国展に出品を続けながら、休日や有給休暇を活用して勉強を重ねることができた。



夢科山・絹本色紙・真野玉淳

自分の教室を開く

水墨画を志して三十数年、下諏訪町、諏訪市、茅野市で教室を持つことができ、水墨画の基礎を中心に、生徒の皆様と勉強を続けております。水墨画用品は、硯や筆など、どこの家庭にもあるので、いつでも誰でも始めることができます。また、画材が安価で揃えられ、作品は額装や軸装掛け軸にでき、町内の展覧会や文化祭の作品として飾ることができるのも魅力です。

趣味としてこれからも

水墨画は基礎が重要です。その道さえ守れば、楽しく始められます。また、水墨画は精神絵画であり、脳の活性化に役立つとも言われています。

これからも、趣味として楽しく続けていきたいです。

(雅号 玉淳)

いつの間にか三十年

書の楽しさを教えてくれた師



南四王 遠藤 敏恵

字を書くことが好きで習い始めた書道も、いつの間にか、三十年も経ちました。今では、弟子も少しずつでき、今年は御柱の看板等も書かせていただきました。賞状を書いたり、講演会等の演題を書かせていただいたりして、「習ってよかったなあ」と思います。

私の通う教室は、松本にあります。そこで指導してくださる方が、西村古香先生です。現在、毎日書道会では参与会員、長野県現代書藝協会では名誉会員で、本部教室以外にもNHK文化センター講師他、忙しく飛び回っている先生です。そんな雲の上の様な師ですが、中学の頃から

ご指導いただいているためか、お父さんのように慕う、とても尊敬できる師です。今では本部教室は息子さんの水穂先生に譲り、名誉会長として、会を見守ってくださっています。が、やはり古香先生が教室や練成会会場に見えると、場が引き締まります。

私もそんな両先生のお陰で、毎日書道展では三回の秀作賞と一昨年には一般公募で最高賞の毎日賞をいただき、連絡をいただいた時には足や声が震える程驚きました。松本の教室では新年の賀詞交換会の場で、毎日書道展会員昇格の祝賀会を開催していただき、感謝の気持ちでいっぱいです。

最近では、子育てやそれに関する役員等で忙しいので教室に

は通えず、書を書くにも短時間で集中して仕上げています。自分でも納得できる書は書いてはいませんが、短時間でも集中している間は無の心になって書けるので、「また頑張ろう」という気持ちになります。

最後に、師に感謝しながら、快く書ける環境を作ってくれる家族に感謝し、書の道で恩返しができるように、これからも精進して行きたいと思っております。皆さんも、書を通して、精神統一と礼儀、集中力をつけてみてはいかがでしょうか。



祝賀会で恩師と

十一冊のLINE

明快な「はい」を

久しぶりに銀行の窓口で手続きをお願いしました。窓口利用者が、自分の名前を呼ばれるのを待っています。手続きが進んだ順に、名前が呼ばれます。ほとんどの人が、無言のまま立ち窓口に進んでいました。立ち上がることでの自分の存在を示せ、手続きは滞らないので、特に不都合ではありません。

毎日の何気ない多くの場面で、「はい」と返事をするのがなく、見逃されているように思うのです。「はい」は、自分の存在や心身の健康を表す自己表現でもあります。学校では「あいさつの第一歩は『はい』の返事です。はっきり言いましょう」と教えています。

「はい」と答えて私は手続きを済ませましたが、「はい」だけなのに、意識しないと難しい。「はい」を意識し、心身の健康を確かめ合い、笑顔が一層あふれる日々になると快感だらうなあと思っています。

(林)